

しんらん同人

NO, 506

7月号

二〇一三年七月一日発行 郵便番号171-0052
 発行所 東京都豊島区南長崎一の三の八 誓願寺
 TEL 03-5500-7828 FAX 03-5500-6820
 E-MAIL SEIGANJIN@RESET.JP

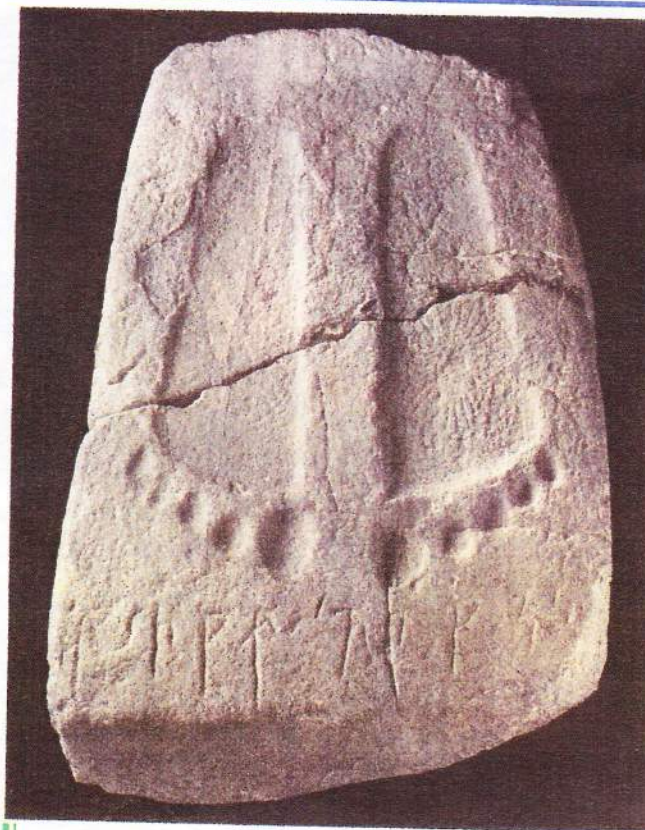
仏とは真実そのもの

仏とは真実を悟られた方であり、真実をとかれた方であります。

仏の仰せには、少しも偽りや、誤魔化しはありません。

仏教徒は、仏の仰せを信じ、仏の仰せのままに行じていくものであります。仏の仰せをそのままただく事が、仏の教えに随うものであります。

仏の教えは、世界の真実相を示し、自己の真実相を知らしてくださるものであります。人間世界の真実相は、無明だということであります。無明である



仏足石

片岩に仏陀の足跡を浅く彫ったもの 底辺にブッタ・シャカムニの足跡という銘文があり、中央にそれぞれ放光状の幅を持つ法輪をあらわしている。110 x 78 x 38 cm

から迷い苦しむのだといわれていきます。

お釈迦さまがお弟子を連れて歩いておられたとき、先の方を歩いていた旅人が急にばったりと倒れました。そこに走りよったお弟子たちは「この人はどこの人だろうか」「なぜこんな矢に当たったのだろう」「この矢は毒矢でないか」などと言い合っているところにお釈迦さまが駆け寄り、直ちにその矢を抜き取って、お弟子たちに仰せになりました。

「苦しんでいる人から、早くその矢を抜き取ってやる事だ。どんなに論議し合っても、

旅人の苦しみを取る事は出来ない。仏法もこれと同じである。世界はどうして出来たのか、死んだらどうなるのか、などと幾ら議論しても、迷いの苦を離れる事はできない。仏法は理屈を並べる事では

なく、人間の根源の苦を除く法である」と仰せられたという話があります。苦を抜き樂を与える事が仏の慈悲であります。論議する事では救われません。毒矢を抜きとっていただくことであります。

如来(仏)の仰せを聞いてみると煩惱の毒に犯され迷い続けてきた私でありました。迷いの毒を取り除い

七月十四日(日) 午前十時

お盆法要厳修

家族みんなで連れ添って
お参りください

てやろう、やすらかな悟りの身としてやりたいという、仏の願いであります。もし、わたくしが仏となったとき、あらゆる人々が、仏のまことをいただいて信じ、よろこび、わが浄土に生まれる事に安らぎを得、念仏して、生まれる事ができないならば、わたくしは決してさとり身とはならない。この願いがあるが故に、今こうしているまんま、お慈悲の中であり、必ず浄土に生まれさせていただき、仏の慈悲に抱かれていますのであります。

前住法話

命終わるとき



んだのがこの詩
でした。

「茫極の仏恩

報謝の情 清晨

幽夜 ただ称名

我れ称えると

いえども 我れ

これを聴く こ

れはこれ大悲召

喚の声なり」

江戸時代大願という優れた宗

学者がいました。安芸の国・中筒

賀村に生まれ、十八才で本山の学

林に籍を置いて布教の傍ら、西本

願寺の三大法難の一つとされる

「三業惑乱」を献身的に解決した人

ですが、とくにお念仏を喜び、

会う人ごとに勧めますので、本山

も放置するわけにもいかず

「あなたは念仏が往生の正因だ

と説いているそうだが、それに間

違いないか」

十年にも互り信心を乱した三業惑

乱事件の直後でもありましたの

で、本山は自力のはからいを案じ

たからでしょう。その時大願が詠

極まりない仏のご恩を思えばそ
れに報いねばならぬと言う気持
ちになります。

「朝も夕もただお念仏するだけで

す。称えているのは私ではなく、

私の口を通して仏が南無阿弥陀

仏とよんでくださっています。

私はそれを聴いて喜ばしていた

だいているのです」

これには文句の付けようがあり

ません。有難い人だと感じ入っ

たということです。

私たちに出来ることといった

ら念仏することだけです。念仏

はいつでもどこにいても称えられ、

大きな声で具合悪いなら小さな

声で結構です。念仏を申すと、

「心配するな、任せなさい」

といわれているように聞こえ

ます。嬉しい時も悲しい時

も、どんなにか力強く生かさ

れて行くか分かりません。そ

れも自分がやっているのでは

ない。向こうから働き掛けて

下さる仏の願いが私の口に現

れて南無阿弥陀仏となったの

です。

桐溪和上が亡くなったのは

九十才でした。

お念仏を喜んで行かれました

から、生きているままお浄土

に包み取られて行かれたので

しょう。今度は私の番と思ひ

ますとなんとなく寂しいです

が、そうではない、お慈悲に

包まれているのだった。必ず

浄土に生まれさせていただく

のだ。南無阿弥陀仏が出て下

さるたびに

「よかったなあ」

と喜ばせていただいています

す。順番はだれに回って来

るか分かりません。やがては

この人生に別れを告げる時が

来ます。死んだらどうなる

か。お願いしなければ行かれぬ

なら大変ですが、祈るでも願う

でもない、仏の方から願って

て下さるのです。引き受けたと

呼んで下さるのが南無阿弥陀仏

ですから、安心して今日一日を

精一杯生かしていただき、安心

して死んで行くことの出来る、

大きな世界が恵まれているのだ

と喜ぶばかりです。

親鸞聖人は九十才でお亡くな

りになりました。その時の様子

を御伝紗では、

「弘長二年の冬からいささか健

康が優れず、それ以来余り世間

のことは口にせずひたすら仏恩

に感謝しながら称名を続けて、

八日目の十一月二十八日、念仏

の声の絶えるとともに亡くなら

れました」とあります。

私も聖人のように仏の仰せを

信じて南無阿弥陀仏の呼び声を

頂いて生かしてもらうだけで

す。そういう安心を恵まれてい

るのが浄土真宗の念仏の世界で

す。

誓願寺婦人会会計報告

収入の部	金額	支出の部	金額
婦人会費	92,500	北組年会費	5,000
ぞうさん募金	11,527	ダーナー募金	10,000
雑収入	1,500	めぐみ購読料	2,400
小計	(105,527)	祥月命日は花代	10,000
前年度繰越金	258,150	坊守ご葬儀	40,000
合計	363,677	婦人会昼食代	4,282
		小計	(71,682)
		次年度繰越金	291,995
		合計	363,677

質疑応答

問

今度、霊園で法事をしますが、葬式の時お願いしたお坊さんと霊園のお坊さんと どちらに頼んだら良いのでしょうか。

答

本来ならば、どの家にも決まった菩提寺というものがあるはずで、仏事はもっぱらそこへ依頼するのが当たり前でした。現在だからこそ、あなたのようなご質問があり得るわけです。

さて、法名は、どちらのお寺で付



けて頂いたのでしょうか。法事のお勤めは同じ僧侶に依頼するのが筋であります。法名を付けるというのは、ただ名前を付けるというだけではなく、後々のことも面倒を見る責任があるということの意味するからです。もしも法名を郷里の菩提寺から受けられた場合には、葬儀を執行了した僧侶に依頼するのがよいでしょう。それも出来ない場合には、菩提寺から紹介を受けた僧侶にお願いします。

さて、霊園墓地が普及してきますと、どうしても年忌の法事を墓前法要で済ませてしまうという傾向が強まっています。しかし、墓前法要はいつも晴れるとは限りませんし、必ずしも交通の便がよいとは限らない場合も多いようです。納骨などの時は仕方がありませんが、それ以外の時は、遠方の墓参りは内々であらかじめ済ませておき、ご自宅や菩提寺、あるいは便利な会場などで落ち着いて法要を営むことをお勧めいたします。

釈尚文 独り言

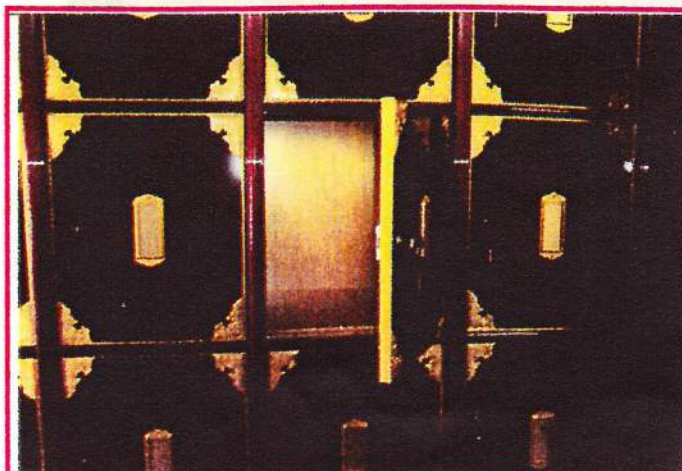
ことわざに「縁なき衆生は度し難し」という言葉があり、「人の忠告を聞かないものは救いようがない」の意味に用いられているようです。ここにある「度」は「渡す」の意です。ということとは、全ての人々を救ってくださる如来様でも救えない者があるのでしようか。

不安を感じ住職に質問しましたところ、縁のない人々は、救っていたにいてに気づけ

新しい納骨仏壇

今、生きているうちに、あなたの納骨仏壇を用意しませんか。核家族となり、親子の関係もだんだん変わりつつあります。安心して生きてゆくために準備が必要です。

そこで新しい納骨仏壇を作りました。これはお寺の方で永代に供養できる一人用の納骨壇です。一基三十万円からです。場所等は先着順です。早めにお申し込みください。



ないまま；；気づいてそれを喜ばないまま日々生活しているのだとのこと。納得した次第です。

編集後記

◎お盆をむかえる。十四日に法要の予定。

◎今更、お盆の説明は必要ないと思うが、目連尊者が自分を育てるために餓鬼道に落ちた母親の姿を見て、何とか救わんとお釈迦様にお願したところ、多くの僧侶にお経あげてもらいなさいといわれ、そのとおり、実行して母を餓鬼道から救ったというのが、お盆の始まりでその喜びが盆おどりだそうです。

◎私たちの身の回りには大きなご恩を与えて下さるものがあるのに、そ

のご恩が大きければ大きいほど、またそのご恩が変わらなければ変わらないほどかえって忘れやすいものです。特に父母の恩にはどうかすると甘えたり、忘れたりしがちです。

◎子供のために母は餓鬼道に落ちると言うことです。しかも母は子供から何も求めない純粋なものです。

◎そのご恩を忘れているのが私たちです。生きている母に感謝する「母の日」はありますが、死んだ母に感謝する日はありません。

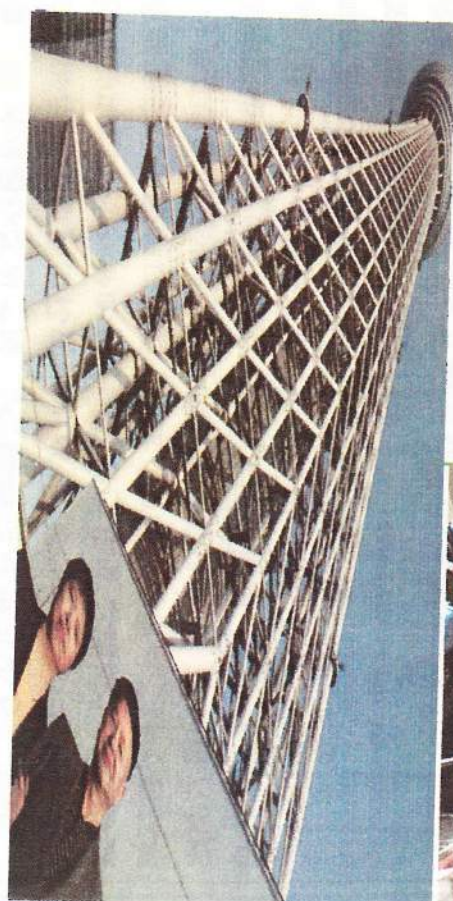
◎お盆こそ亡くなった母への感謝の日として、また現在の父母、七世の父母のご恩を感謝する大切な日がお盆です。

◎家族そろって手を合わせましょう。

出来たらお寺やお墓にみんなでお参りするのでもいいでしょう。

現代は核家族になり、そのような習慣を子供に教えなくなりつつあります。これは将来大きな禍根のこします。

◎坊守英子の一周忌法要を行った。親戚や同行、知人がたくさん集まった。みんな英子のことを忘れないで集まってくれた。彼女が一番好きだった「和顔愛語」内輪に書いてみなさんに渡した。稚拙な字で恥ずかしかったが、心をこめて書いた。



平成二十五年七月回忌法要

和顔院釈英順	岡本英子	74	2012/7/2	一周忌
光華院釈尼浄環	高橋たまき	92	1991/7/11	二十三回忌
瑞巖院釈信珠	斎藤信一	95	2012/7/15	一周忌
釈尼浄俊	福田俊江	96	2001/7/24	十三回忌
謙敬院釈新英	青木新治郎	68	1989/7/25	二十五回忌
順正院釈賢寿	森岡寿夫	56	1979/7/26	三十七回忌